

# 杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて  
杉戸を再発見

第105回

郷土の偉人・大島有隣  
— 石門心学入門⑦ —

関口保宣は、大島村（現杉戸町大字大島）で、祖父の代より医を生業とする家に宝暦五年（一七五五）に生まれています。よく知られているように、大島有隣とは同じ年でもあり、同じ年に中沢道二の門下に入っています。保宣の家と有隣の家とは、至近距離にあったことから、二人が竹馬の友であったことは想像に難くありません。

その地元大島村の恭儉舎に、二人の師である道二が来訪したのは天明六年（一七八六）のことですが、奇しくもこの年、保宣は関東郡代伊奈忠尊に招かれ、赤山地方（現川口市）での心学教諭を始めています。このことから保宣は、道二の弟子としてすでに頭角を現し、武士階級を含め、その名が世に知れていたともいえるでしょう。実際、この後保宣は、大名の細川（常陸谷田部）、酒井（庄内鶴岡）、本多（奥州平泉）、戸田（美濃大垣）などのほか、旗本諸家に至る、多くの武家への心学教化に努めたのです。保宣が道二第一の高弟と言われる所以は、師の留守を預って、参前舎を主宰したり、人足寄場での代講を務めたりしたほか、こうした武家階層への教化活動に顕

著な功績があったればこそでしょう。

文化二年（一八〇五）八月、保宣は、道二の後継者として、武家方・町方双方の都講から参前舎の舎主に推薦されましたが、実現には至りませんでした。しかし、参前舎での保宣の教化活動が全く見られなくなったわけではありません。文化十四年（一八一七）に上河淇水が保宣へ宛てた書状中に「不相変参前舎に於て心学被相行、御同前に大慶に存じ候、猶宜御教諭可被成遣、所希に御座候」とあることからわかります。

文政二年（一八一九）六月、保宣は、六十五歳の高齢を理由に郷里大島村に帰り、齢八十年代半ばの老母に孝養を尽くしつつ、地元の人々に道を説くことを喜びとしたのでした。（つづく）

※1 関東郡代：関東の幕府直轄領支配のほかに、水系の整備、治水灌漑、検地など広域行政にあたった職。

※2 都講：心学講舎の責任者

※3 上河淇水：手島堵庵に学び、その後養子となり分家上河の姓を名乗る。

（社会教育課 町史・文化財担当編）



関口保宣家にあった長屋門

## みんなでつくる 愛される図書館⑤

問合せ 町立図書館 ☎ (33) 4056

### レファレンス

杉戸町では20万冊の本を所蔵しています。でも、その中から読みたい本や必要な資料を探すことは大変ですね。そんな時は図書館職員にお尋ねください。図書館にはレファレンスサービスがあります。レファレンスサービスとは、みなさんからの質問・相談を受けて図書館の資料の中から調べものに必要な資料を探すお手伝いをする事です。例として、

- ① 書名、作者名のわかっている本の所蔵調査（所蔵・所蔵機関調査）  
「●●というタイトルの本は杉戸にある？」「杉戸にない場合、どこの図書館にある？」ということを調査します。杉戸町にない資料も他の市区町村から取り寄せることができる場合もあります。
- ② 知りたいことに関する本の調査（資料・文献案内調査）  
「××に関する本を探している」「××について知りたいがどのような資料があるか」という特定の内容に関する資料の紹介や探し方についてご案内します。

- ③ 知りたいことに関する調査（事実事項調査）  
「△△について知りたい」というような特定の事柄や事実を調べるお手伝いや資料の紹介をします。

なお、宿題、課題等学校の授業に関係するものや医療相談、法律相談、個人のプライバシーに関係するもの等については、お答えできないこともあります。レファレンスは図書館窓口や電話でも受付しています。どうぞお気軽にお尋ねください。



UD FONT by MORISAWA  
ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。



杉戸町ホームページ



メール配信すきめー



広報スマホ版マチイロ



杉戸町公式LINE